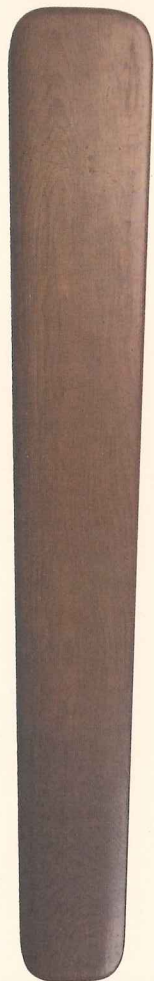


## 笏と笏紙

笏しやくとは、儀式において東帯を着用する際に、威儀を整えるために右手に持つ細長い板のことである。中国では、コツと呼ばれる同様のものが、すでに周の時代（紀元前11世紀頃 - 紀元前256年）から用いられ、もともとは忘備のためおぼえがき覚書などを記したものであったという。日本では、コツの音が「骨」に通ずるとしてこれを嫌い、かわりに、板の長さが一尺（約30cm）であったことからシャク（笏）と呼ぶようになった。奈良時代の「養老令」では、五位以上の官人の笏は、中国の制度にならって象牙製とされたが、容易に入手できなかったため、平安時代の「延喜式」では、白木を用いることも許された。笏に使用する樹種は、イチイ、フクラ（モチノキ）、サクラの類いとされており、現在も天皇および皇太子の笏にはフクラを使用している。

当館が西園寺家より寄託されている史料群（「西園寺家文書」）には、江戸時代前期の西園寺家の当主で、大忠院こと実晴（1601-73）が自ら製作したものを含め、5本の笏が残されている。これらは、当主や家の関係者が使用したと思われる。

笏



西園寺実晴作  
17世紀  
西園寺家文書

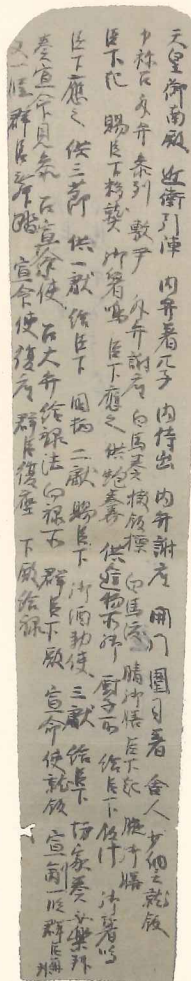
笏は、儀式のときに、その裏側に式の次第を書いた紙を貼りつけ、途中で見ることも用いられた。その紙を笏紙しやくしと呼ぶ。笏紙は、いわばカンニングペーパーである。ところが、儀式の途中に、笏紙を貼りつけた裏側を表側に出してしまい、笏紙丸見えの笏を気づかずに持って物笑いの種になった公家もいたという。

「西園寺家文書」には、笏紙も24点ある。そのなかで古いものは、戦国から江戸時代初期の当主西園寺実益（1560-1632、実晴の祖父）が、文禄4年（1595）に写した元日・白馬両節会の次第である。実益は、翌年正月、白馬の節会の内弁（責任者）を勤めており、その準備のために書写したことがわかる。

公家にとっては、諸々の儀式を間違えることなく円滑に進めることがきわめて大切なことであった。今にも通じるカンニングペーパー（笏紙）を時に眺め、儀式に臨んだ人々の心持を思うと、健気さを感じるの

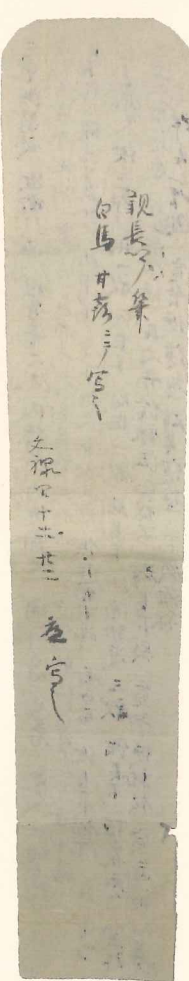
は私たちだけであろうか。  
(客員研究員 徳仁親王・木村真美子)

笏紙（表）



西園寺実益筆  
文禄4年（1595）  
西園寺家文書

（裏）



## 武州世直し一揆

日本史の教科書によれば、江戸時代に起きた百姓一揆・打ちこわしは、3000件をこえると記述されている。江戸時代が「百姓一揆の時代」と言われる一因であろう。

当館では、慶応2年（1866）に起きた幕末期最大の「武州世直し一揆」の発生村である武蔵国秩父郡上名栗村（現埼玉県飯能市）の名主町田家史料を所蔵している。来年（平成28年）は、この武州世直し一揆の勃発から150年目の年にあたる。ここでは、名主町田家に残った武州一揆関連史料を紹介し、あらためてこの一揆について考えてみる機会としたい。

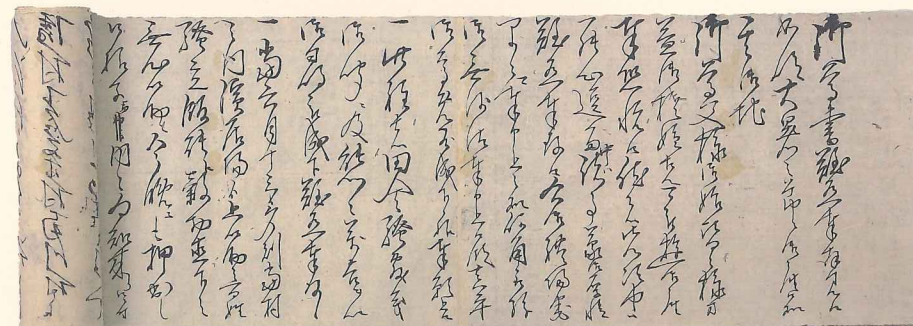
### 武州世直し一揆とは

慶応2年（1866）6月13日、上名栗村を発端として武蔵国一七郡・上野国二郡にまで波及した大規模な打ちこわしが起こった。民衆が「世直し」「世均し」を呼号して立ち上がり、各地で米の安売りや施金・施米、質地証文・借金証文の廃棄などを求めて闘った。鎮圧される19日までのわずか7日間のあいだに瞬間に関東各地に広がりを見せた、同時多発的、広域的に発生した一揆である。この事件は、発生地である上名栗村をはじめとする一揆の舞台となった村々にとって大事件であったことは言うまでもないが、江戸の近郊村で起きたそれまでに類を見ない大規模な一揆であり、幕藩体制に与えた衝撃は大きく、幕府の威信を揺るがす出来事であったといえる。



### 町田安之助宛 町田瀧之助差出書状

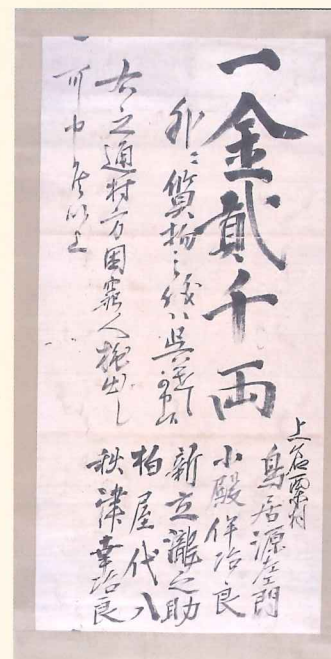
上名栗村名主町田瀧之助が、自身が体験した武州一揆の顛末を江戸深川で材木問屋を営む父安之助へ書き送ったもの。書状の長さは4m80cmにもおよぶ。一揆発生後間もない12日目に書かれた。まだ記憶が鮮烈なときに、一揆側との緊迫したやりとりなど当事者しか知りえない事実を、心情も交えながら詳細に記している。



慶応2年（1866）6月24日  
町田家史料

### 金2千両を困窮者へ施金すると墨書した文書

一揆勢は、村役人が引き止めるのもきかず、飯能の質屋・穀物屋などを狙った。その際通過していく村々へ多額の施金を要求した。この墨書は、上名栗村の豪農が要求にこたえて金2千両の支払いと質物の帳消しを約束して掲げて見せたものと考えられる。最終的には、施金は千両を支払うことで決着した。  
(学芸員 丸山美季)



慶応2年（1866）  
町田家史料